

令和4年度 学校評価アンケート 考察

【知】

○成果

- ・「もっとできるようになりたいという思いをもった子」「話を最後まで聞ける子」が85%以上を占める。

○課題

- ・「わからないところをそのままにしている子」が30%以上いる。
- ・どの質問においても、児童と保護者の肯定的な回答に10%程度の開きが見られる。

○考察

- ・学習に前向きに取り組める子が比較的多いが、内容の理解や定着という点においては不十分という実態がある。意欲を理解につなげる手立てが必要である。
- ・保護者が自分の子供の学習に対する姿勢や内容の理解度を気にしていることを考えれば、その心配な思いが児童との数値の差として表れたと捉えることができる。学校の授業を「分かる、楽しい」と思える子供を増やすことで、保護者の心配を少しでも解消していけるとよい。

○次年度に向けて

- ・「聞く、話す」を重点とした学習の基本の定着を図る。特に1学期における指導を大切にする。
- ・各教科での基礎的基本的な力の定着を大切にし、来年度も高学年を中心に教科担任制を活かして、わかりやすい授業を実現する。
- ・引き続き学習展開や指導方法を工夫し、子供のやる気を引き出すことで意欲が持続するようにする。
- ・ICTの効果的な活用（ICT支援員の活用、校内研修の充実）を進めることで、より分かりやすい授業づくりを目指す。
- ・教科指導におけるキャリア教育について研究し、子供たちに「今の学習がこれからの社会で生きる力につながる」ことを意識させる。

【徳】

○成果

- ・クラスの一員、家族の一員としての役割を果たして生活できているという回答が、児童、保護者ともに80%を超えている。
- ・友達のよさを理解し、かかわりが円滑であるという回答が、児童、保護者ともに90%を超えている。
- ・「あいさつ、思いやり、いのちを大切にする」の項目については、児童、保護者共にその多くが肯定的な捉えをしており、その大切さを理解している。

○課題

- ・徳の内容についての意識としては高い傾向が見て取れるが、実際の子供たちの言動（軽はずみな行動、自己中心的な行動等）については改善すべき点が見られる。
- ・「あいさつ」をはじめとして子供の表れには個人差がある。また、時と場によって表れが変わる子供もいる。

○考察

- ・「命を大切にする子」「自己肯定感が高い子」を育成するため、今後も継続して個に応じた声掛けをしつつ、道徳の授業を充実させて心を耕し、具体的な場面で話し合う機会を持つ必要がある。
- ・「あいさつができる子」を育成するため、さらに自ら進んで取り組みやすい形に深化させる支援が必要である。
- ・失敗を経験しながら学ぶ場、壁を乗り越えながら成長する場が学校であることを子供たちが感じられるよう、学校と保護者が連携していく必要がある。

○次年度に向けて

- ・全体として肯定的な思い（できている。がんばっている。）を大切にして、よいところを

伸ばすという構えで支援指導にあたる。

- ・子供たち一人一人が安心して活動でき、活躍し、称揚される場を増やしていく。
- ・コロナによる行動制限の緩和状況に合わせつつ、あいさつ運動の実施方法や呼びかけ方を工夫して充実を図る。
- ・自分の居場所があり、友達と支え合いながら仲良く生活できる学級づくりをすすめる。そのために、道徳の授業による心の耕しや行事や学年・学級活動を通じた仲間づくり、集団づくりを大切にし、一人一人が安心して学校生活を送ることができる学級経営を行う。
- ・子供同士のトラブルについては迅速に丁寧に対応し、事実や思いに沿って友達との関わり方や距離感などについて適切な助言や支援を行う。

【体】

○成果

- ・どの質問についても、児童は肯定的な回答が80%後半を占めている。
- ・個人差はあるものの、多くの児童は学校生活において進んで体を動かしたり、カー杯体育科の授業に取り組んだりしていると考えている。

○課題

- ・子供や保護者の意識は全体的に肯定的だが、体力の維持向上という点についてはコロナの影響もあり、その数値以上に課題（運動量、運動機会確保、運動意欲や体力の二極化。等）がある。

○考察

- ・運動することに消極的な子、苦手意識を持っている子に対し、体育科の授業だけでなく行事や集会等を通して、めあてを立てて取り組むよさや体を動かすことの心地よさを体感できるようにしていく必要がある。
- ・「もう少し頑張ればできる。」「この目標なら達成できそうだ。」という思いを持って取り組めるめあてや練習の場を設定することが大切である。

○次年度に向けて

- ・健やかな心身の育成、体力・健康を保持増進するためには基本的な生活習慣を定着させることが大切であるため、規則正しい生活のリズムや食べることの大切さ、体と心のつながり等について指導支援していく。
- ・「できた、のびた」を実感し、自主的・継続的に体力づくりに取り組むための指導の工夫や場の設定をしていく。（スモールステップ学習、児童の実態に合った学習カードの提示やルールの設定、体力や技能にあった練習の場、学年活動での運動の場の設定、持久走の全校練習等）

◎まとめ

今の子供たちがもっているよさを伸ばしていくことが大切です。また、どの質問項目にも「(あまり)あてはまらない。」児童・保護者がいることを忘れずにしっかりと目を向けることも同じように重要であると考えます。このことを念頭に、だれもが安心して通える、通いたくなる葵西小学校を目指して上記の手立てを中心に教育活動に取り組み、より一層自己肯定感と自己有用感を高める支援を心掛けていきたいと思えます。

※保護者への迅速で的確な連絡手段として、また紙資源の節約の観点から、「さくら連絡網」の活用を推進していきます。「家庭で見えるところに貼っておきたいお知らせ」「特に重要なお知らせ」は紙文書とさくら連絡網で伝達しますが、それ以外はさくら連絡網のみでの伝達を原則として対応していきます。

学校評価アンケートへの御協力ありがとうございました。自由記述でいただいた、子供の頑張りや学校の取り組みを認めていただく声は、大変励みになりました。また、御意見も真摯に受け止めて対応してまいりたいと思えます。今後とも、本校の教育活動への御理解、御協力をよろしく願います。